

2025 年 10 月 7 日

課題名： 腹腔鏡下経腹膜前腔修復術（TAPP）における Secure Tacking Against Recurrence（STAR）の再発率減少効果について

◆研究の目的と概要◆

当院では、腹腔鏡下（ふくくうきょうか）鼠径（そけい）ヘルニア手術において行われている STAR（スター）法と従来の固定法について、それぞれの再発率や術後の痛み、合併症の違いを調べています。

本研究では、これらの手術方法の安全性と有効性を比較し、今後のより良い鼠径ヘルニア治療につなげることを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

対象となる症例は、2018 年 1 月から 2024 年 12 月までに当院で腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP）を受けた患者とします。

◆研究に使用される情報・試料◆

本研究では、倉敷中央病院で腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を受けた方の診療情報を使用します。

使用する情報は以下の通りです。

- 年齢、性別、身長、体重、BMI
- 既往歴（糖尿病、喫煙など）やこれまでの治療経過
- 手術に関する情報（手術日、手術時間、出血量、使用したメッシュの種類・固定方法など）
- 術後経過（入院期間、合併症の有無、再発や痛みの有無）
- 血液検査の結果（ヘモグロビン、白血球数、血小板数、肝機能・腎機能など）
- 画像検査の結果（必要に応じて CT や超音波検査の所見）

これらの情報はすべて診療録（カルテ）から取得し、個人を特定できない形（匿名化）にして解析します。

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025 年 11 月 1 日以降

◆研究方法◆

本研究は、倉敷中央病院で腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を受けた患者さんの**既存の診療情報（カルテ、手術記録、検査データなど）**を利用して行います

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承ください。以下、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

研究責任者 外科 別所達生

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- ・研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- ・研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- ・研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- ・研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明